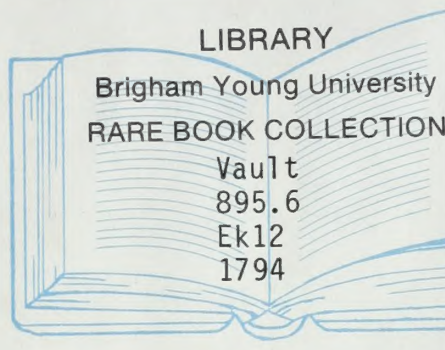


四遊旅譚

卷之肆



LIBRARY

Brigham Young University

RARE BOOK COLLECTION

Vault

895.6

Ek12

1794

BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY



3 1197 23947 1490



楊百翰
大學子
武館

西遊旅譚卷之四

十一月十四日長崎を發して三里時津に至る十五日朝船

系風雨波り大村領龜浦と云ふ島に於ける程く船を

出せ又小串と云ふ小島に於ける島有船より海岸を出入す

皆岩名雲母と云ふ大風雨と云ふ島に於ける十六日已の刻

比船を出て六里を走平戸領針尾瀬戸に於ける大村領

左平戸領と云ふ地の辨天沖の嶺と云ふ此方半里程の中

山入組組語と云ふ潮岸岩に觸波と云ふ此方雲珠捲

をとりて誤り乗入船忽沈むと又海底岩石拔出と云ふ

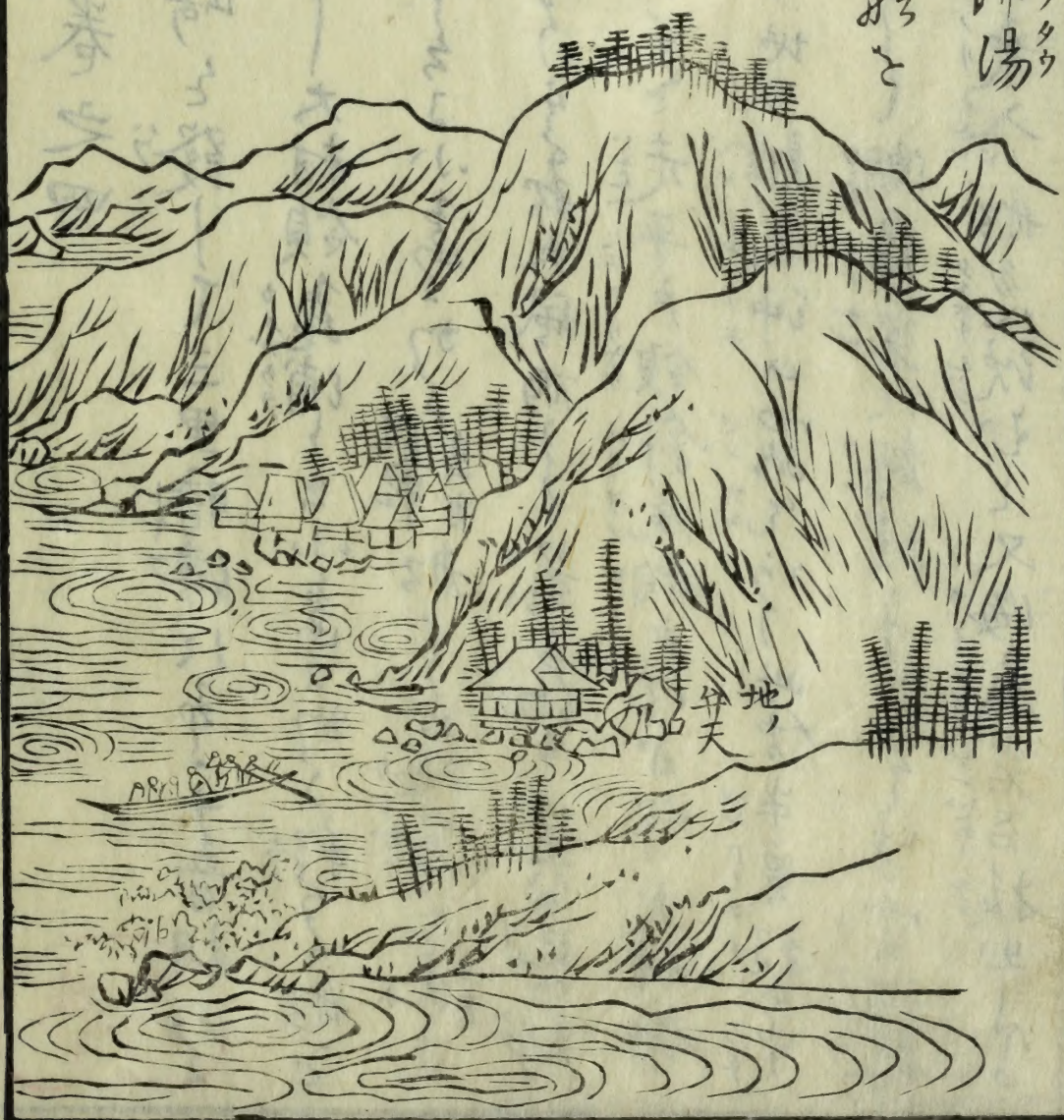


白波飛で沸湯

のめー湖海を

宋干湖に

西遊記 卷之四
十一月十四日 西遊記 卷之四
西遊記 卷之四



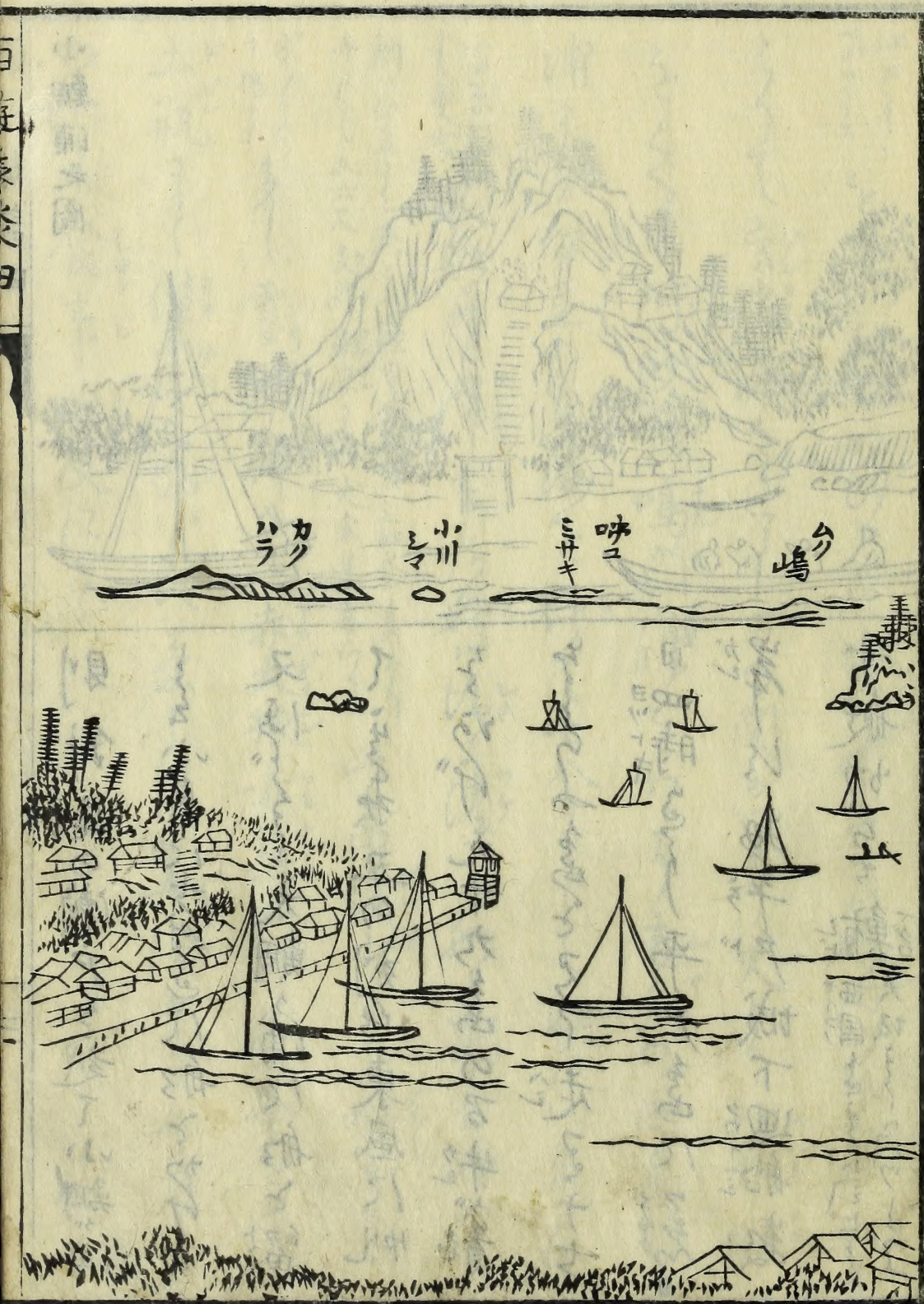
向所六長崎の方々



平戸城下
勝芳山ヨリ
眺 夕 元 圖



内河八景のすゝめ



小鯛浦之図



則針尾の瀬戸を越て小鯛浦
と云小島にたつてに船とかけ
又ほゞ大鯛浦に船と留
ては秋丑の刻に東風に帆
をひげ九十九島の石牛首
をめぐりて走りて
日四時より平戸島に
岸にお平戸城下廻船敷
十艘あり
鯛 西国をめぐりて
大坂より江戸へ

江戸を發し船に發し冬月時雨の風多に帆を

下関より夫より防州灘

阿波の鳴門瀬戸をわたり志賀の國島羽ノ

浦より伊豆の東海を経て七八日江戸に來る

又船中滞事あれば清くおろしき

此處煖おろし橙ガボン

赤大根赤蕪より桑冬をふん

傳名をいふ桑より甘漬を冬月

食事四度にき

西遊長炎日

平戸城下クシランサシ觀音院の境内ツリカキ鐘ツリカキの支那カラより渡りて

真シンに支那物カラモノは播州尾上ハシノウオノより鐘カキと同物なり

親善堂より小松重盛の親善堂又阿部宗任ムネトウの塚あり

昔マドと和蘭及イギリスより此處に船ツケと

園カコミの屏ヘイ今より石と云々ヤシを海ヌルより市街マチより

橋ハシ石と云々事長崎の如く昔西洋フランサの人上月廿三トウ日

至シる寺カイキの開基支那僧タウワカより今に此見と稱ホウルする

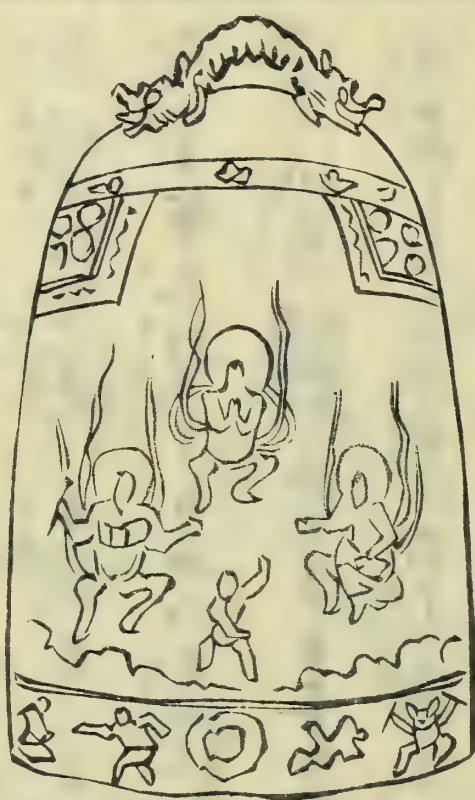
俗家ヅクカにあり候等ツキイハ搗ツキり

親善院境内鐘之圖

阿蘭陀牆



聖護院御願所平戸島觀音院
奉施入鐘一口應永十二年未
十二月日と彫てり



天人樂器を鑄り



の図は余模寫し多し余の圖は所々
山とくも景も國中に畫くは鄭樓

薄香浦
之圖
平戸埤下ヨリ二里
是ヨリ生月島へ
波ル海上三里



唐津山

田助浦



東方斑島アリ

北
方

州壹

對
馬



大島三里人宅七百余軒

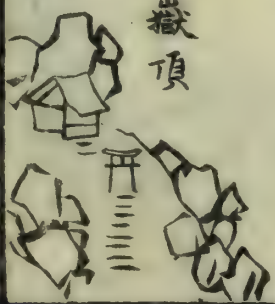
宅島人百余家軒



横
島



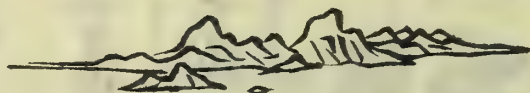
白
嶽
頂



朝鮮國



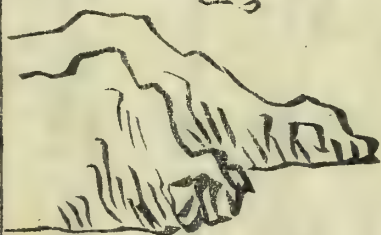
生月島
三里
西南
方ナリ



七島
アリ
ヲレカ



左ノ方
安島
山嶽
アリ

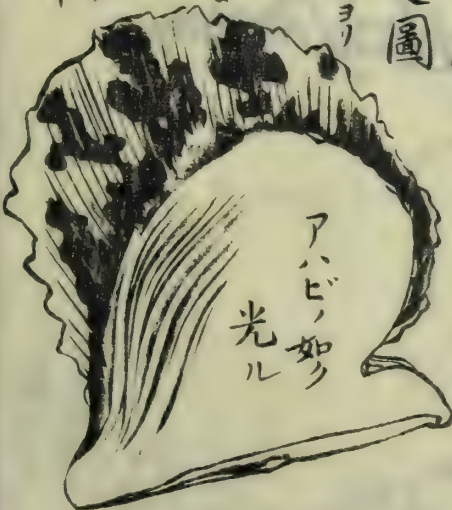


十二月四日朝風吹り城下より一里山を越^{コエ}薄^{ウス}香浦に^{カウラ}至り此浦より
舟を出^{カコノモノ}舟人五人より移^ワとて風を^フ吹^フき^フて^フ行^フく^フに^フ須^ス
臈^{イチ}より^{イチ}所^シ納^ナ屋^ヤ一軒^{イチ}あり^{イチ}に^{イチ}余^ヨ人^ニ家^カ
あり又^{シヒ}納^ナ渾^ンる^ル船^{フネ}に^{フネ}乗^{ノリ}り^{ノリ}月^{ツキ}島^{シマ}に^{シマ}渡^{ワタ}り^{ワタ}海上^{ウミ}に^{ウミ}三^{サン}里^リ濤^タ大^{ダイ}は^ハて
舟中^{フネノナカ}に^{ナカ}入^イ衣服^{イフク}を^ヲ紋^{シタル}目^メ暮^ヨ漸^{シテ}生^ナ月^{ツキ}島^{シマ}に^{シマ}至^キる^ルに^ニ是^{コノ}島^{シマ}
に^ニと^トて^ト事^{コト} 三十日^{サンジツ}に



阿^ア子^コ貝^ヤ之^ノ圖^ズ
真^{マコ}珠^{ジュ}ハ^ハ此^{コノ}貝^ヤヨリ
出^デル

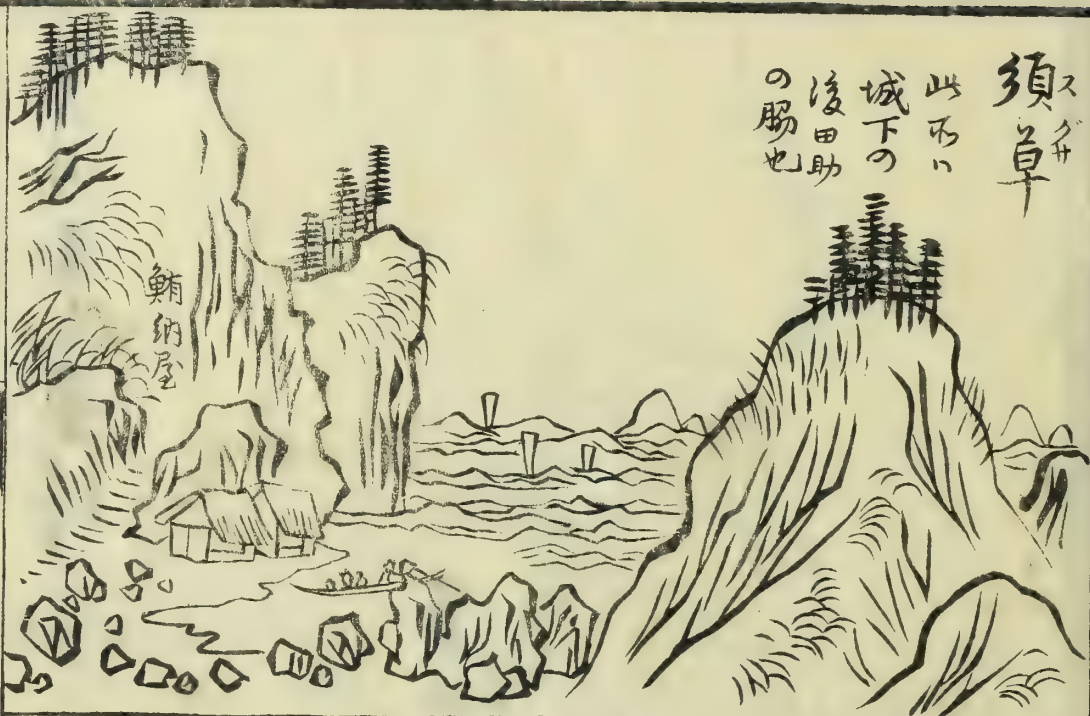
此^{コノ}島^{シマ}の^ノ海^{ウミ}中^{ナカ}に^ニ
あり又^{マタ}伊^イ勢^セの^ノ
海^{ウミ}に^ニも^モあり
二^ニ見^ミる^ルに^ニ
一^{イチ}と^トなり



須草 スグサ

此所は
城下の
後田助
の脇也

鮎納屋



須草より
の
図
は



生月島之圖

巨三里
アリ

琵琶嶽

此所ヨリ後
三崎ト云所
鯨ヲ解ク所
アリ



益富
宅

ヤカ子嶽

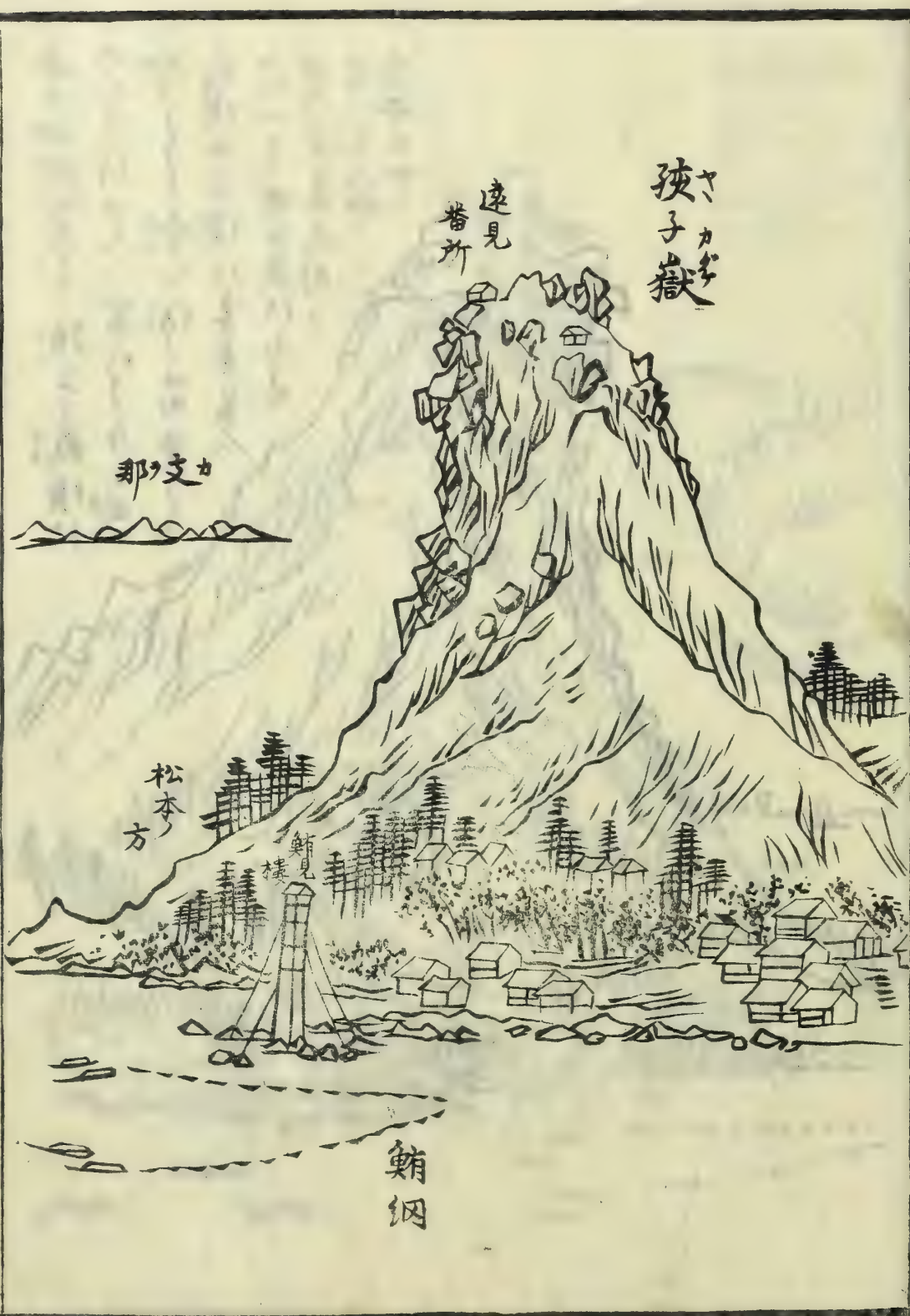
遠見
番所

カ文那

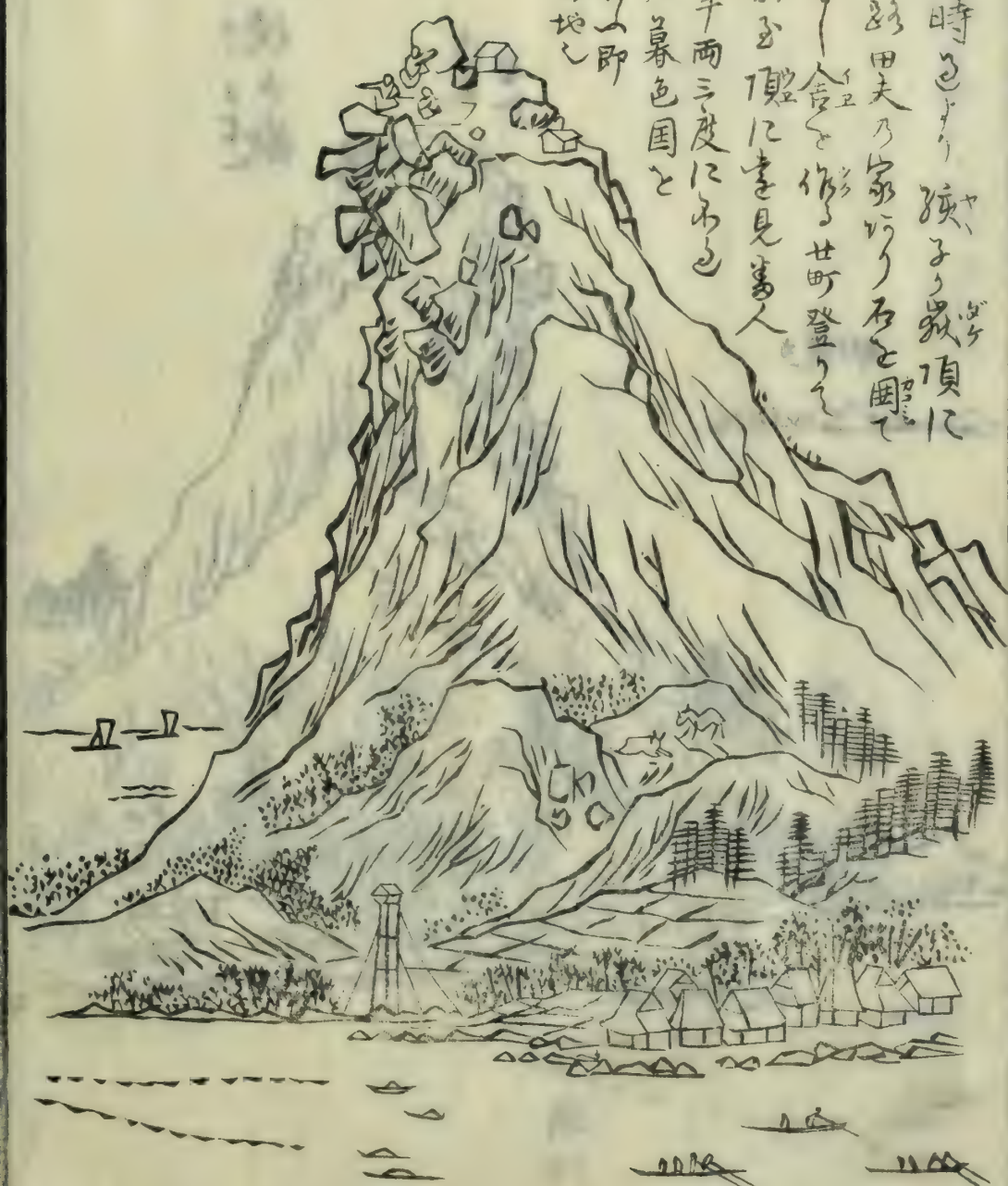
松本
方

見
樓

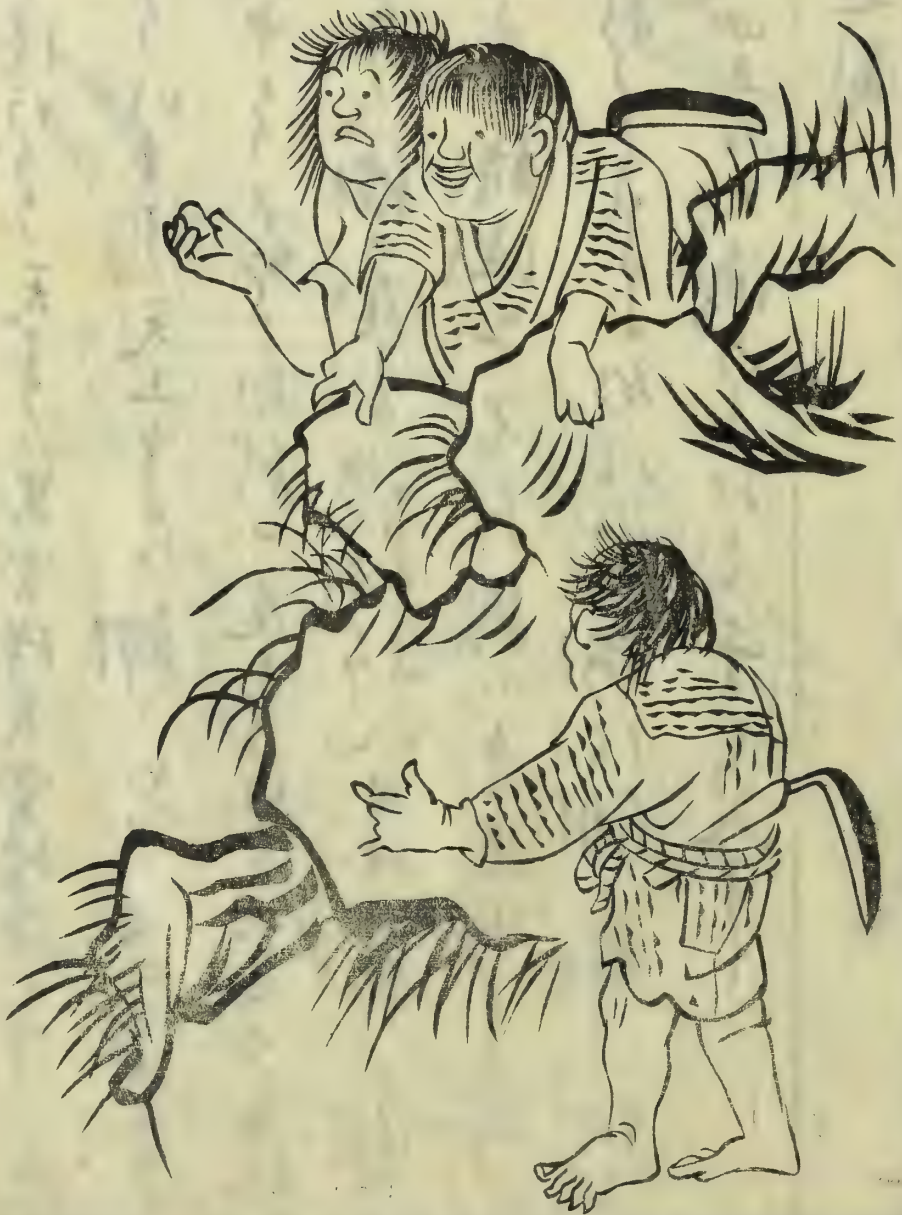
網
簞



五日四時より、^ヤ孩子^{ガク}の巖頂に
つゞき、^{カヘ}田夫^{イユ}乃家^{シラ}なり石を^{カクシ}掘て
登^{カヘ}しう^{イユ}人^{シラ}を^{カクシ}作る^{カクシ}世^{カクシ}登^{カヘ}う^{イユ}
絶頂お玉^{カクシ}頂に^{カクシ}き見^{カクシ}美人^{カクシ}
の曰一年^{カクシ}雨^{カクシ}度^{カクシ}にあ^{カクシ}也
西乃方^{カクシ}暮色^{カクシ}国と
そ^{カクシ}り^{カクシ}一^{カクシ}即
支那^{カクシ}の地^{カクシ}



来登孩
ル山子
園中 獄
ノ小
如童
シモニ



此海中より龍の天に昇事と龍昇人とす然るに海波
を珠の如く捲く天よりハ黒雲降其雲波と云ふと
ど波よりハ天より天上と云ふと鯨と云ふ魚の尾乃
も此雲れ中より出即龍の尾なり故に此島のま
龍の昇と云ふ龍の尾と云ふ漁父云ハ日此島乃
相なる不捕漁と云ふ龍の尾乃月山
岸をむくまに山の腰に網を布一網
二三百或四五百大漁乃云千も入

鯨網之圖

地方

本網

百廿尋

起網是底

百八十尋

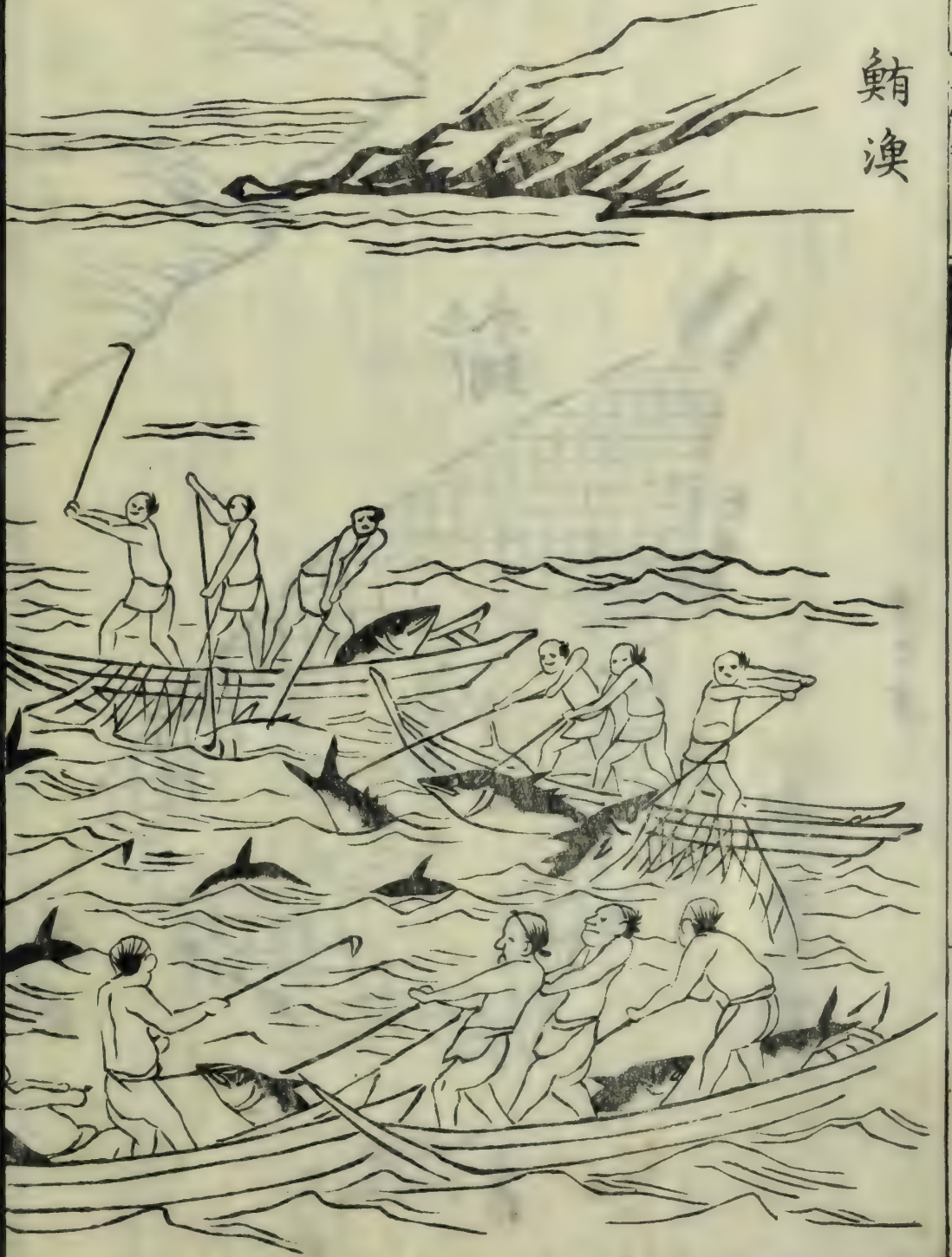
一尋八四尺當

沖之方

立槽



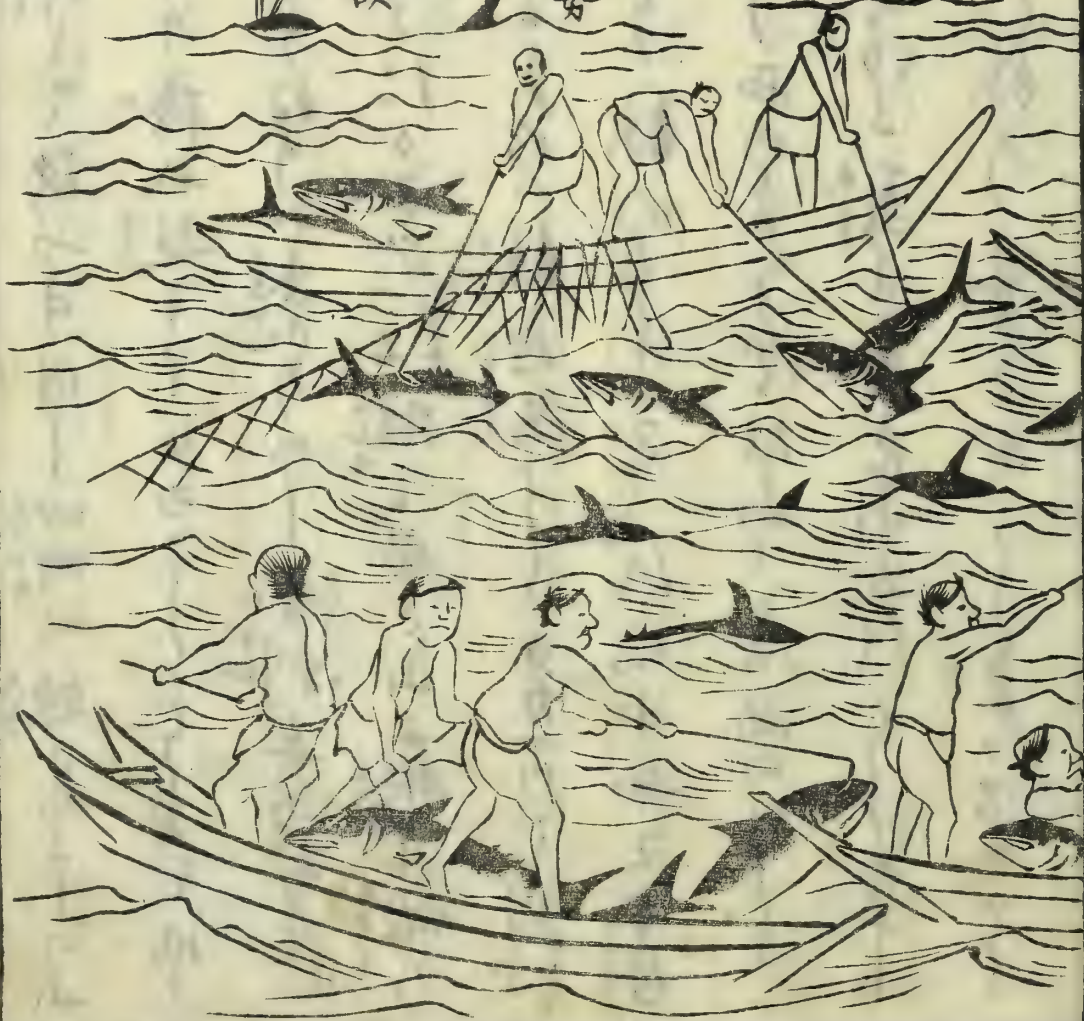
鮑
渙



鱸又タカマツ
顔と
吟んと
不忌舟乃
きハまう
き

氣吹
セイ

入勢



十三日此島^{シマ}も煤拂^{スベハラヒ}として流るる日一四時^{ヨツトキ}以鯨^{クジラ}来る

これより鯨船^{クジラフネ}のつり格^カ八艇^{テウ}より矢のこころを吹

やうに波^{なみ}のうねりハ太山^{タイサン}なりハ主刺^{ハサシ}舟^{フネ}のおもて

うち四方^{ヨリ}と乗廻^{マワル}にタカツ一名潮^{ウレホ}と勢^セ山^{ヤマ}映^エ煙^{ケツリ}乃

タカツ来るハ鯨^{クジラ}船^{フネ}去^サタカツも別

鯨を喰^クふ魚^{イサナ}なり鯨^{クジラ}のそで放^{ハナ}ふ舟^{フネ}を月^{イキツキ}

にこの舟中^{フネナカ}より西の方^{ニシノカタ}より山^{ヤマ}唐画^{カラガハ}の如

十六日早朝^{サウテウ}鯨^{クジラ}の直^タ二舟^{フネ}来る

これより波^{なみ}方^{カタ}此島^{コノシマ}に鯨^{クジラ}の脊^セを吹^{フク}とる

夫より母ハ鯨クジラのる方、オウ走ハシ尤平戸島ヒラトシマと生月島イキツキシマ乃皆

の海より鯨クジラいづこへいゝるべ母と生月島の方、ヒラトシマ返

らんとき時々ややくきつめ以大島オホシマの沖よりイウツウ一般の

船より鯨クジラをえモ鯨クジラとハタ旗ハタをいゝるゝ四方の舟

鯨の方におゐいゝるゝサチ十艘サチよりいゝるゝ

鯨をいゝるゝキヨ巨鯨キヨ乃大洋海タイヨウカイよりヒドク飛動ヒドクする

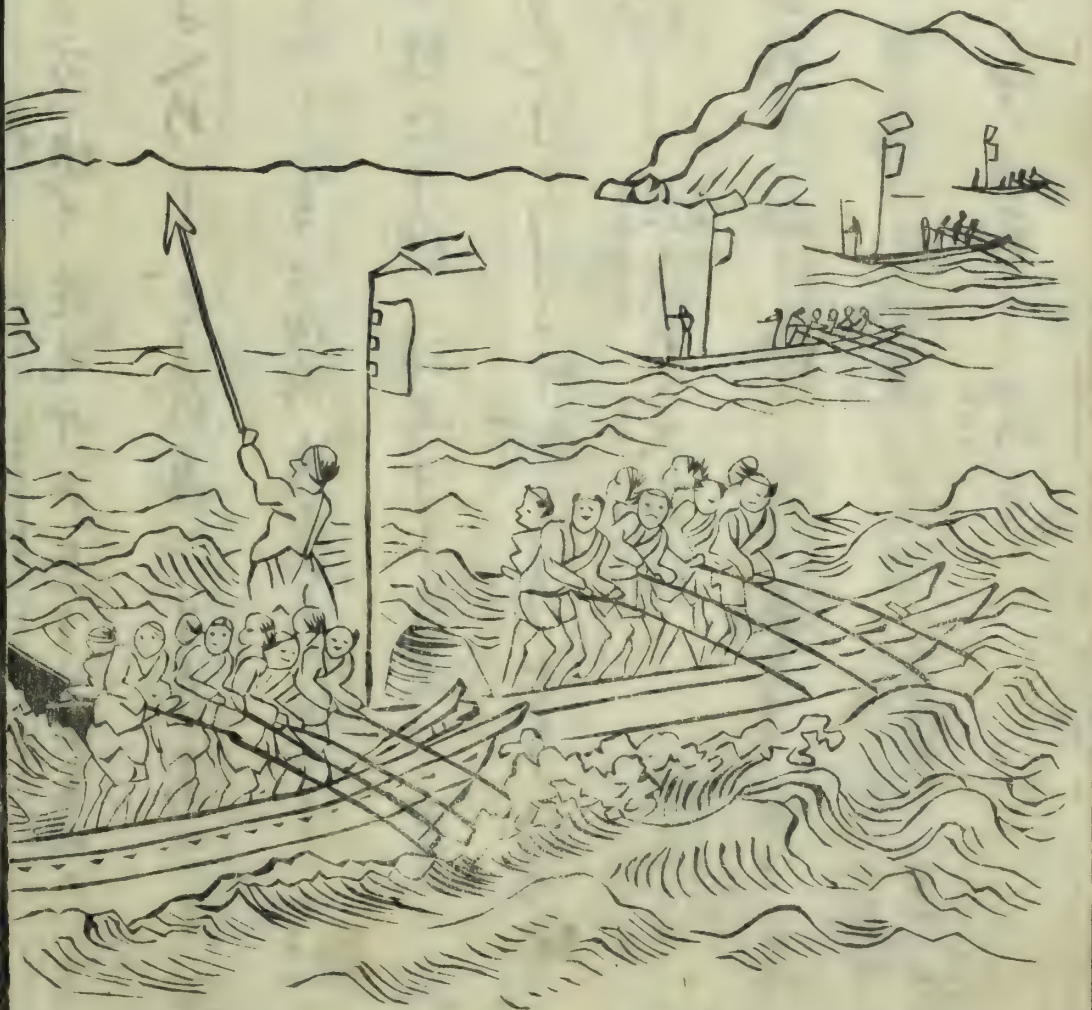
とるゝにハ波ハ濤山タウサンのりやや余ヨの乗ノリ一舟ととサチ鯨

よりいゝるゝ目々メメ初更シヨカウよりミサキ三崎ハ鯨と切解ミサキ石は

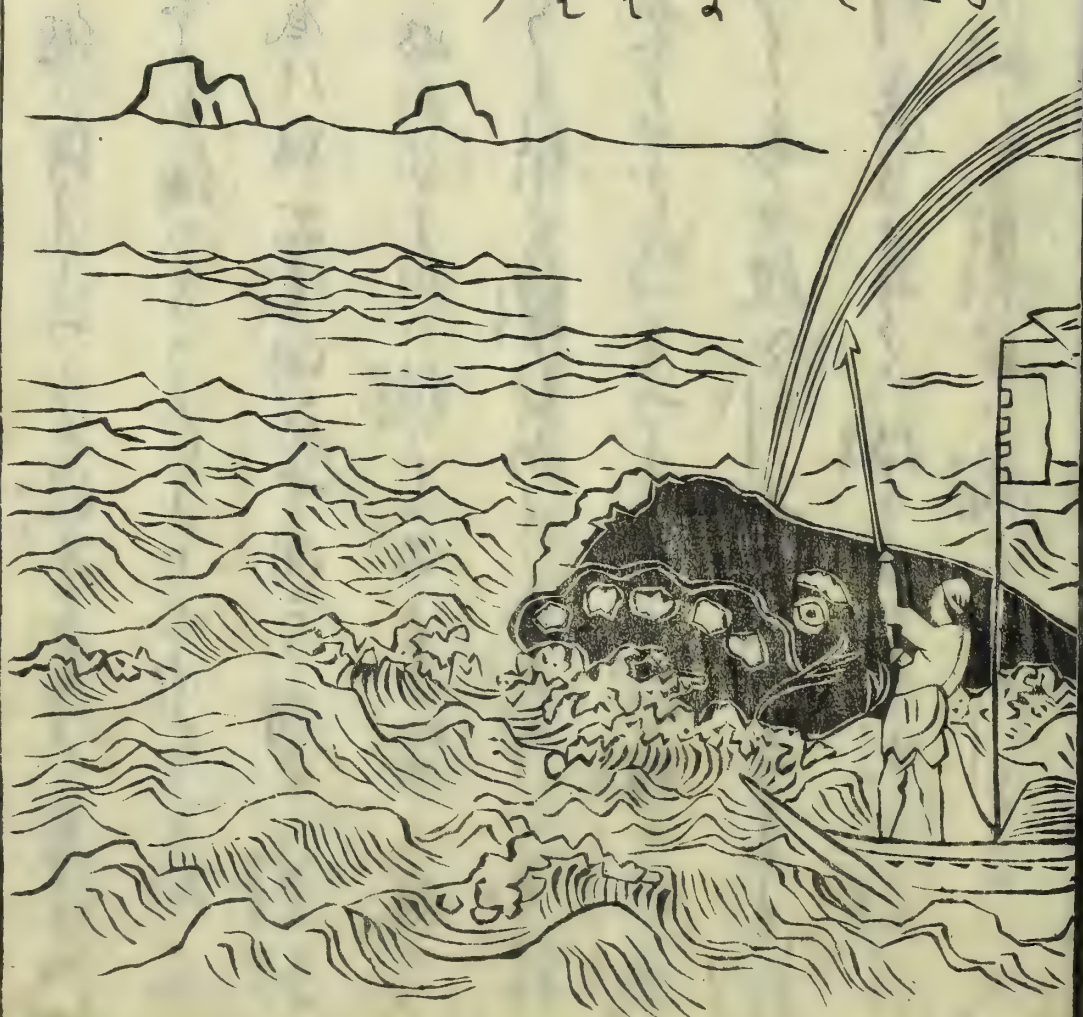
岩イハ乃コト福波フツハのきとシユク此よりシユク岩イハを

鯨漁之図

鯨頭を引海に
あられまゝと吹割
夫を引く鯨を
投棄と吹割る尾
と出 此を引海
底へ入



鯨舟ハ二十艘ト出ス
 その船々毎づツ又
 綱ヒトタビみと出レ雙海と
 名づく
 一結ヒトタビト云ハ綱み二艘
 通舟カヨヒ三艘カヨヒウ此島
 三結と出レ三結ハ此
 六艘綱舟ハ大船トウ
 是綱と積ツクリナウ



[illegible]

頭を叩く潮を舐めしる劍ケシ 鯨と殺ス と持ちぬく

鯨ウサ 船と鳴るやうにびききとこの吹けし一人の若者ワカモノ 海中

飛入鯨の脊セ へのびる脊セ と穿大綱ウカチ と曳透し鯨又

波を叩く海底へやまゝにひくもどく脊セ

又二人の者大綱ウナ と持ち波の底へ鯨の腹ハラ へ下り

旋出カクレイデ するやうに船に揺られ鯨と持ちあはる

三 舟 へ 渡の方キシ 近くチカク 是と鯨をいふ死シ

共俱トモ に鯨ヒシ とくく港チナタ へ至る中し死シ した沈シツミ へ

うめあふみあはぬと刺ハサ して鯨カキ をしるし劍ツ と刺ウツ

と止トジむ余ヨ此漢此漢海海より鯨ゲイリヤウの趣オモキとて刺バサシす勢勢大大水水まき

の傷セシゴク海海は戦戦国国人人の血血流流す朱シの色色とて

別別大島大島の沖平戸の領向ウナハラ海海東東の岐岐の国国對馬ハルカ遙遙に

朝鮮朝鮮の大海大海より鯨ヤウヤクハ海海初シヨカウ更更さる鯨鯨の所所あり

潮ウシホと鯨ウシホ乃ナ半ナカバと隠カクなり全ゼン體ダイハ魚エズ見見夜夜の鯨鯨と定定む

あまの鯨ウシホは是是とて全全體體と海海月月の光光を

る大大サ十十間ケシヨ餘ヨの世セ美ビ鯨クシラ也也世世美美ハ鯨鯨刺ツキ又又は助イダシ曰曰る

時刻時刻よりかくれぬ半半此此海海より兩兩と度度とあり

鯨鯨全體全體とるも此此稀ヒなり

魚^{モリ}鯨之圖

又ヨロヅ

此製生鐵^{ナカ子}

作鯨^{ツル}

刺入^{ウツミ}

綱^{ツナ}

ヲ

半^{ナカ}より曲^{カグ}

四尺五寸

柄^{ツノ}トモニ長廿九尺

同ハヤト云

此^{ツノ}所^ノのも^ノは^ハ鯨^ノを^ハさ^ス

殺^{コロス}具^グ也^{ナリ}

劍^{ケン}之圖

三尺餘

柄共二丈三尺余

鯨^{ツル}を^ハ殺^{コロス}具^グ也^{ナリ}

鯨を
園圖

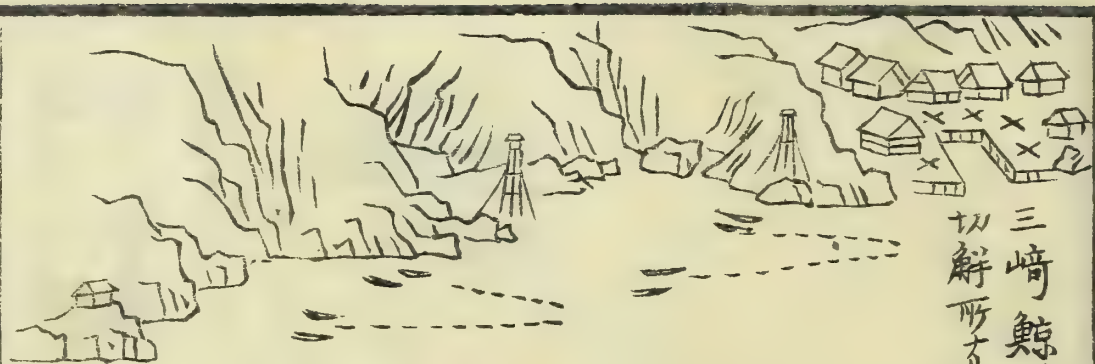
鯨見

網ハ
ケイ
間ニ
ハル

ケイ

ア
ミ
舟



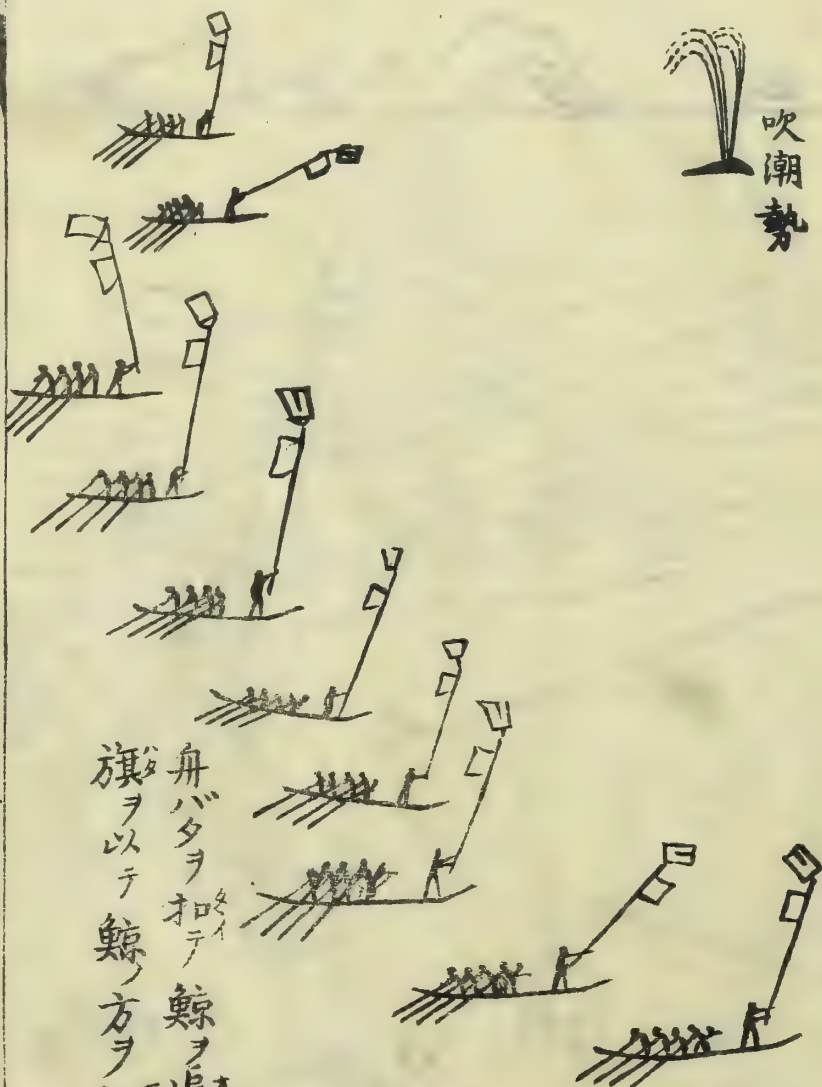


三崎鯨ヲ
切解所ナリ

鯨ニ連

吹潮勢

入勢



舟ハタヲオテ
旗ヲ以テ鯨ヲ追フ
方ヲ招

夜半ゆゑ
鯨乃背に
のびる



鯨番人



鯨切解圖

此所ヲ
三崎ト云

鯨大腸チロリとキル勢イきき

又ア解の奥ミろくミえ

小海老エビとミつミるミわミえミるミえミ

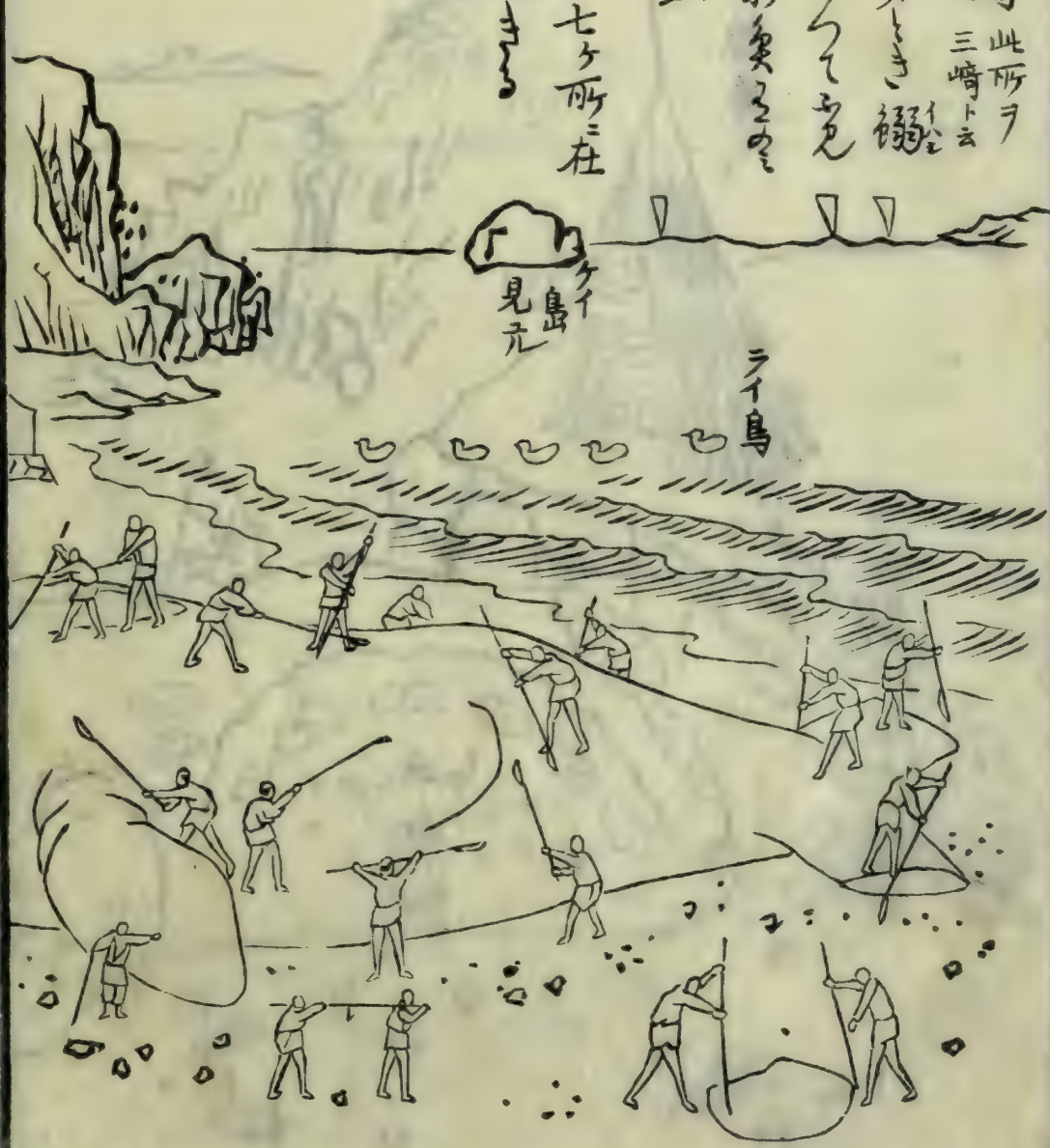
又鯨鯢イナヅナとミるミ

ヨクシラ メクシラ

万力車

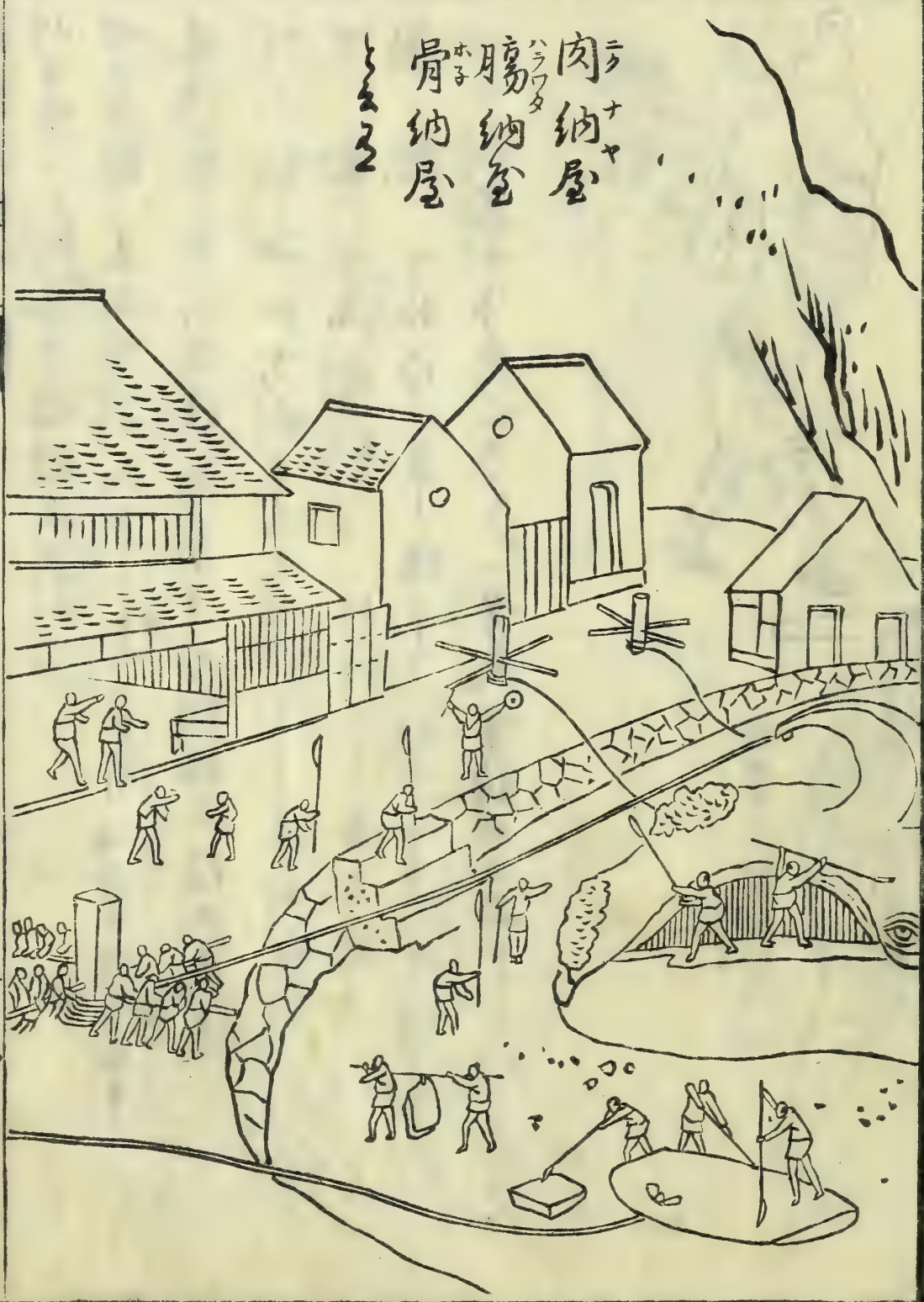
七ヶ所ニ在

大綱と云ミ捲ミきミ



肉^ナ納^ヤ屋
 脇^{ハラ}納^{ワタ}屋
 骨^ホ納^子屋
 三三三

百...
...



此島々々所産の鯨視五品なり

世々美鯨 上品味美大なるものハ十間油取を指す也

長須鯨 中品味淡初希なりと顯海上後入底走ル

中品サ剛なり又希なり味同長須

下品剛極なりと希なり毎と破る

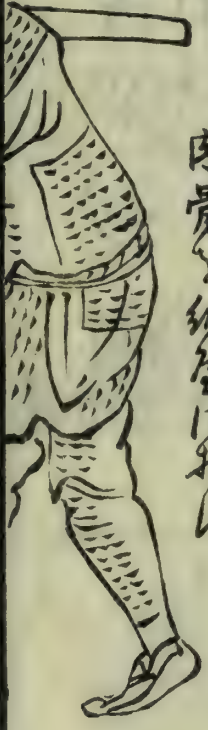
下品ゆる事稀なり鯨の名なりと略弱なり

右各各異なり見所のものハ世々美生頭の二品なりと解ハ見

胴骨



肉骨と細骨にあり



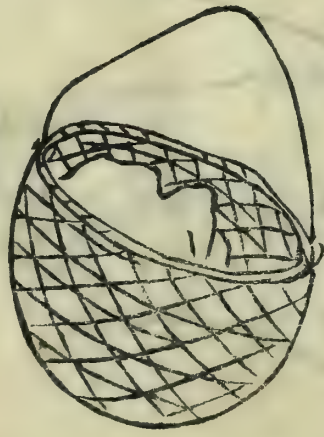
一まゝいぢけ

縁のいぢけしゝゑしゝゑん
ワけよる。

齒
別エラ
き

剪切
人夫ニテ度々お

べツ多ウト者
人夫と云ふ
國すも
もの



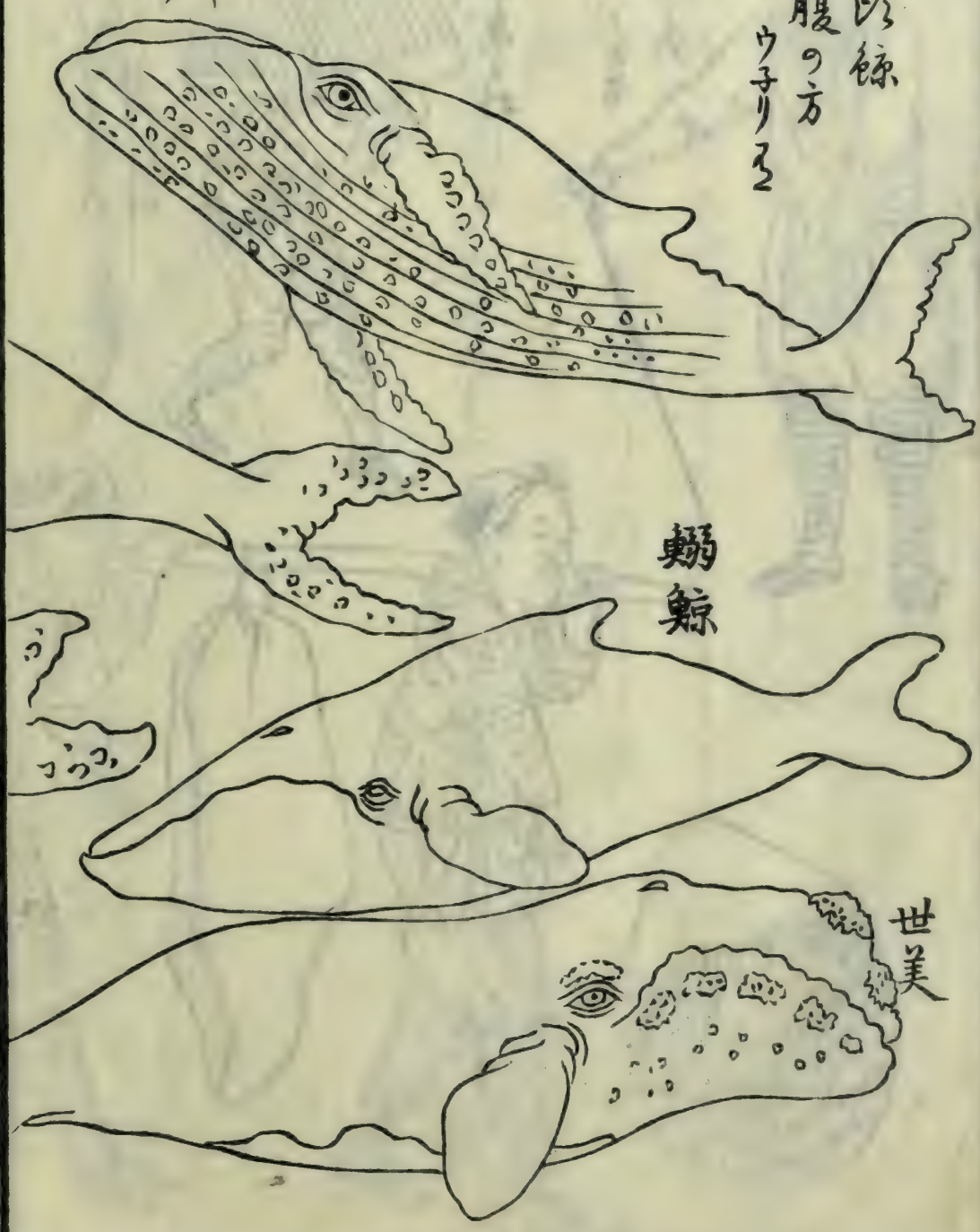
生以鯨

腹の方
ウツリ

此
コ
アリ

鰐鯨

世美



長須鯨

ナカス
長須^{ザタウ}生頭^{ハラコ}腰子^{ハラコ}

大サ九尺

生解世美兒鯨 余

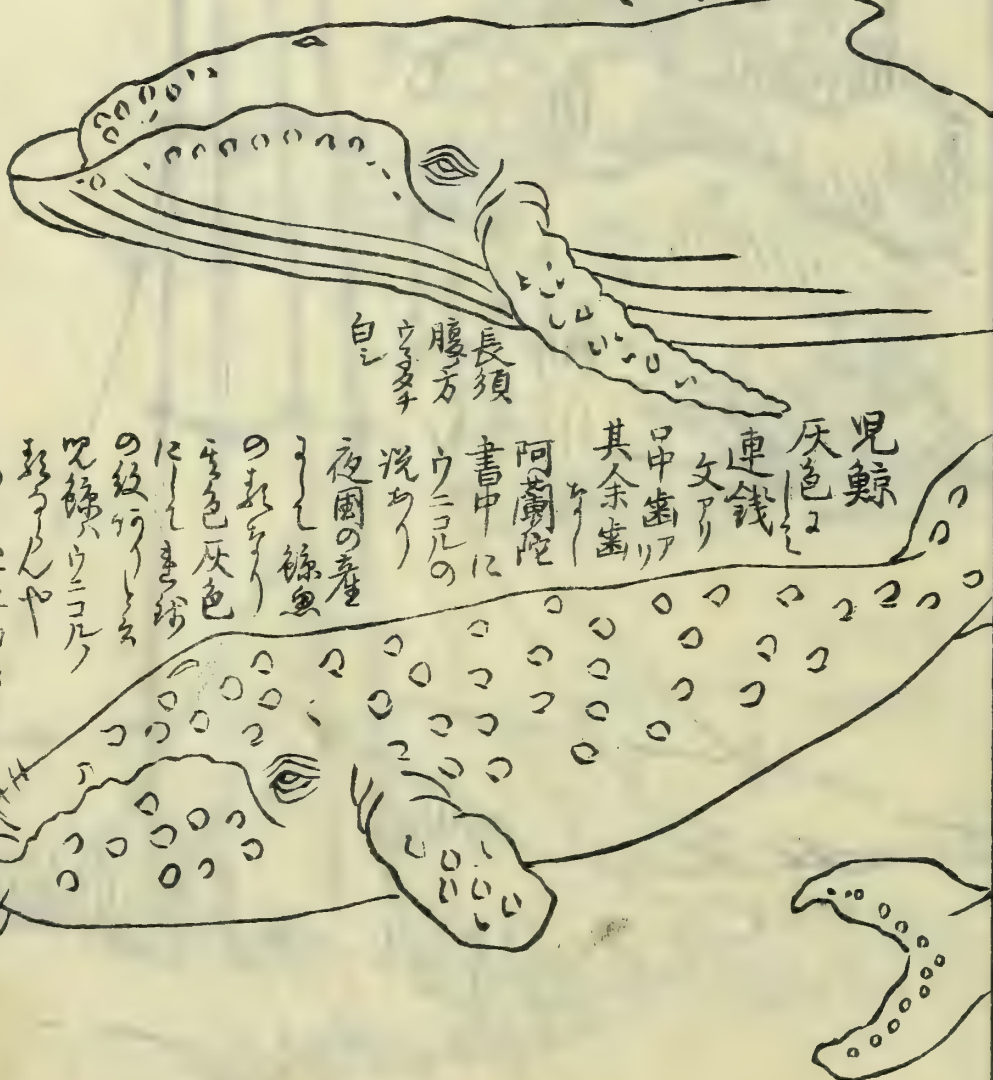
腹子八寸より一尺五寸

總ら鯨を卵^{ラン}生^{セウ}に^{タミゴ}べ

くちを^{タミゴ}生^{セウ}り

交^{シユ}り^{シユ}人^{ヒト}の^ノこ^コま

くちを^{タミゴ}生^{セウ}り



児鯨

灰色^{ハクシ}

連銭^{レンゼン}

文アリ

口^{クチ}中^{ナカ}歯^ハアリ

其余^{その他}歯^ハ

阿蘭陀^{アランド}

書中^{シュチュウ}に

ウニ^{ウニ}の^ノコ^コ

洗^シあり

夜^ヨの^ノ巻^{マキ}

の^ノお^オり

生^{ナマ}色^{イロ}灰^{ハイ}色^{シロ}

にし^{ニシ}ま^マさ^サ

の^ノ紋^{モン}アリ

児^コ鯨^{クジラ}ハ^ハウ^ウニ^ニコ^コル^ル

お^オり^リん^ンや

口の^{クチノ}ま^マに^ニ白^{シロ}き

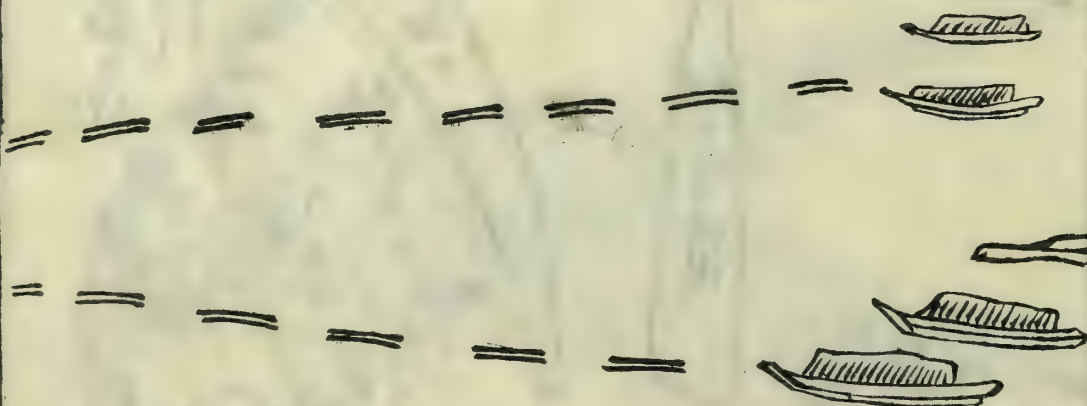
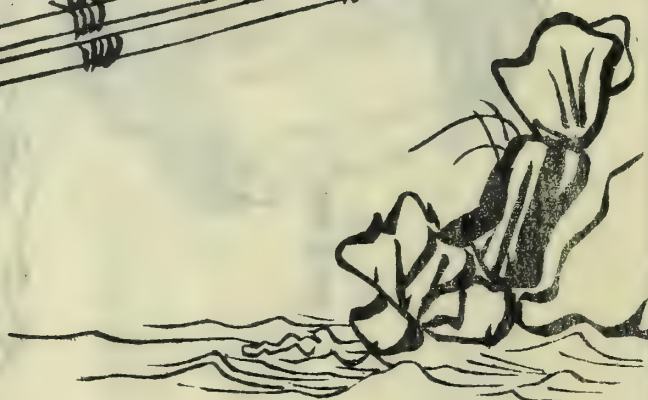
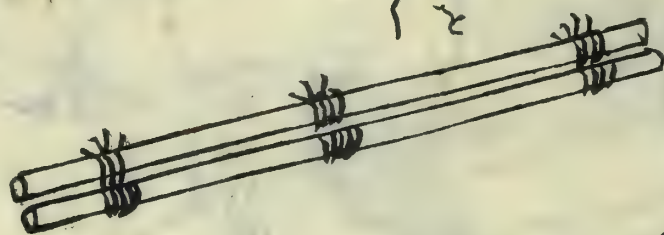
鯨見樓 シロミロウ

鯨見



鯨見の所
旗の上には
舟と出づ
只網を引
閉

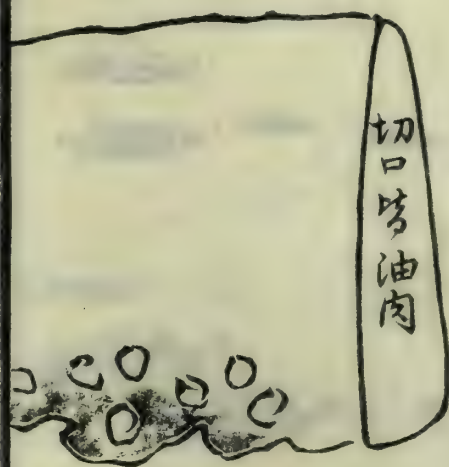
麴網
浮木
竹二本と
くさく



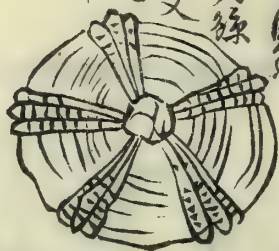
是ハ貝ノミツニ
モツル肉ニ
イフクニ
ミツル



生ハミ録の録
骨子
骨子



此世美鯨
の尾又
尾鰭
に



岩のセイ

貝

海岸の

石

像文

み

み

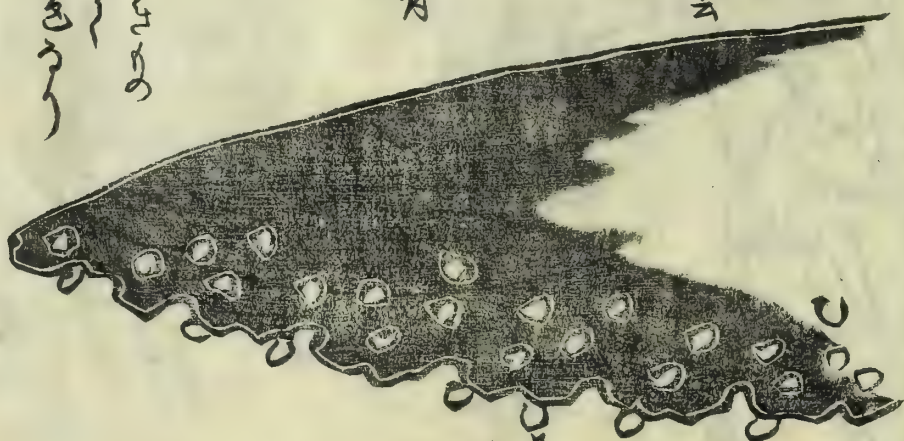


此世美鯨にあり
瀬貝の間にあり
と云

世美鯨の尾
又尾の
形貝を

貝の色白足の
と云肉色に

うみ赤色う

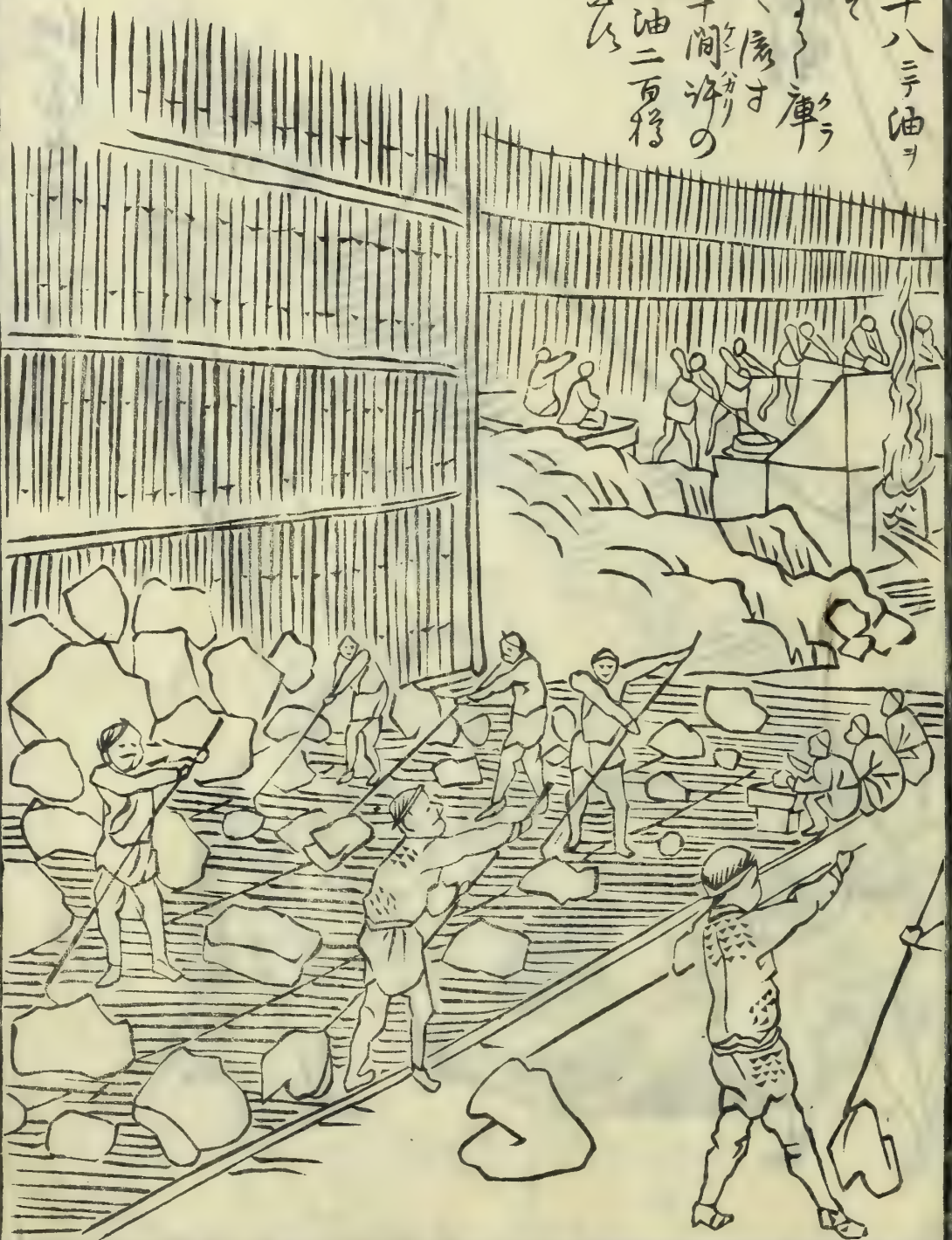


うみ
七
う

肉納屋之圖



竈十八カテ油ヲ
 煎ヒ
 算ハシ々々庫クラ
 の内ウチ後ノチす
 鯨クジラ十間トウ許カリの
 もの油アブラ二百ヒト石イシ
 と出デる



骨納屋之圖 ホナヤ
又 ウラヤ 骨納屋

上 ウラヤ 大骨 ウラヤ

肋骨 ホナヤ



骨と小骨
油と煮だ
碎クダキ



此魚

アミナシトウノメ又
カジキトシトモ云

土佐の國々ハカシキ通ト云
舟の底とツヅク

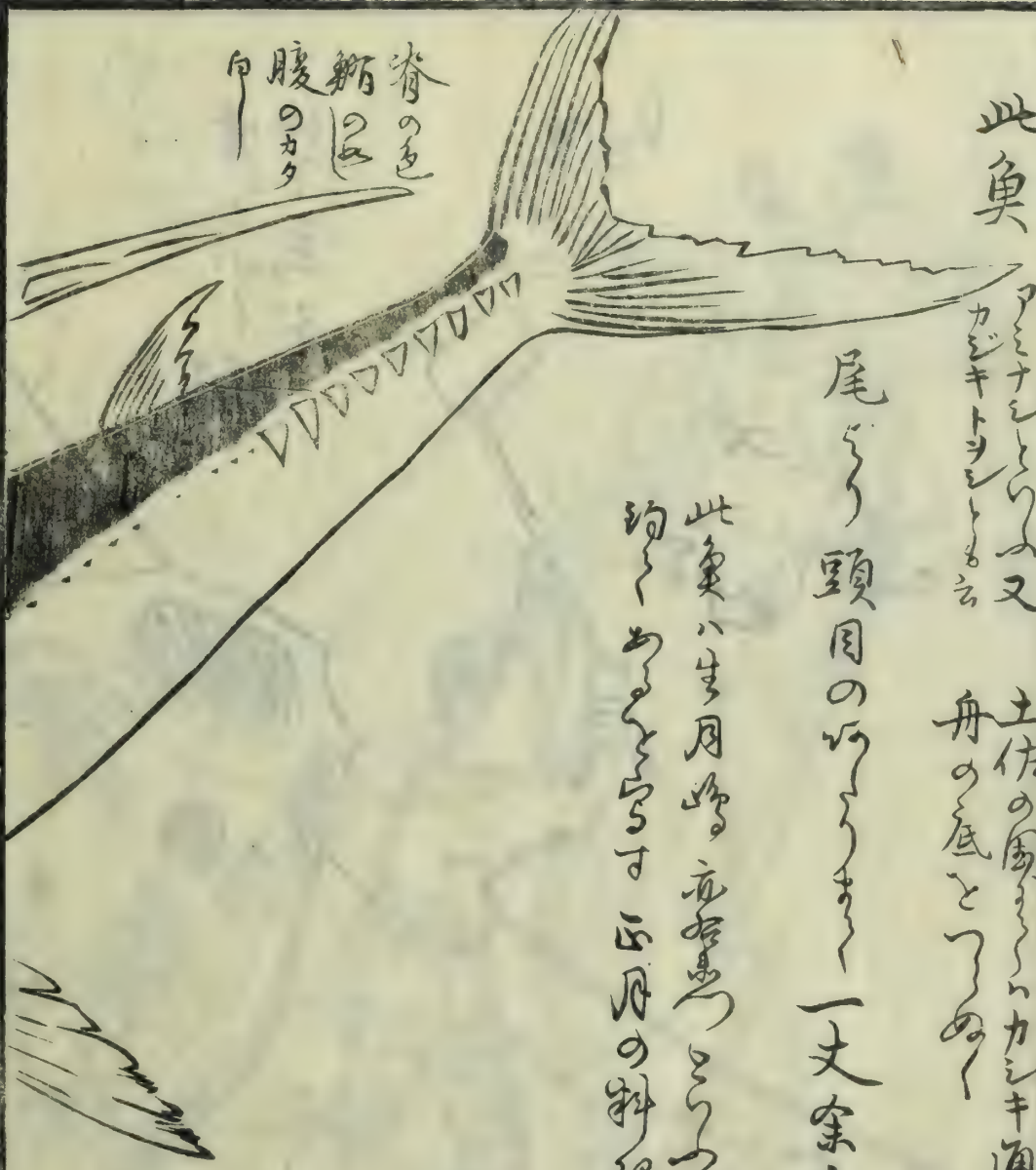
尾

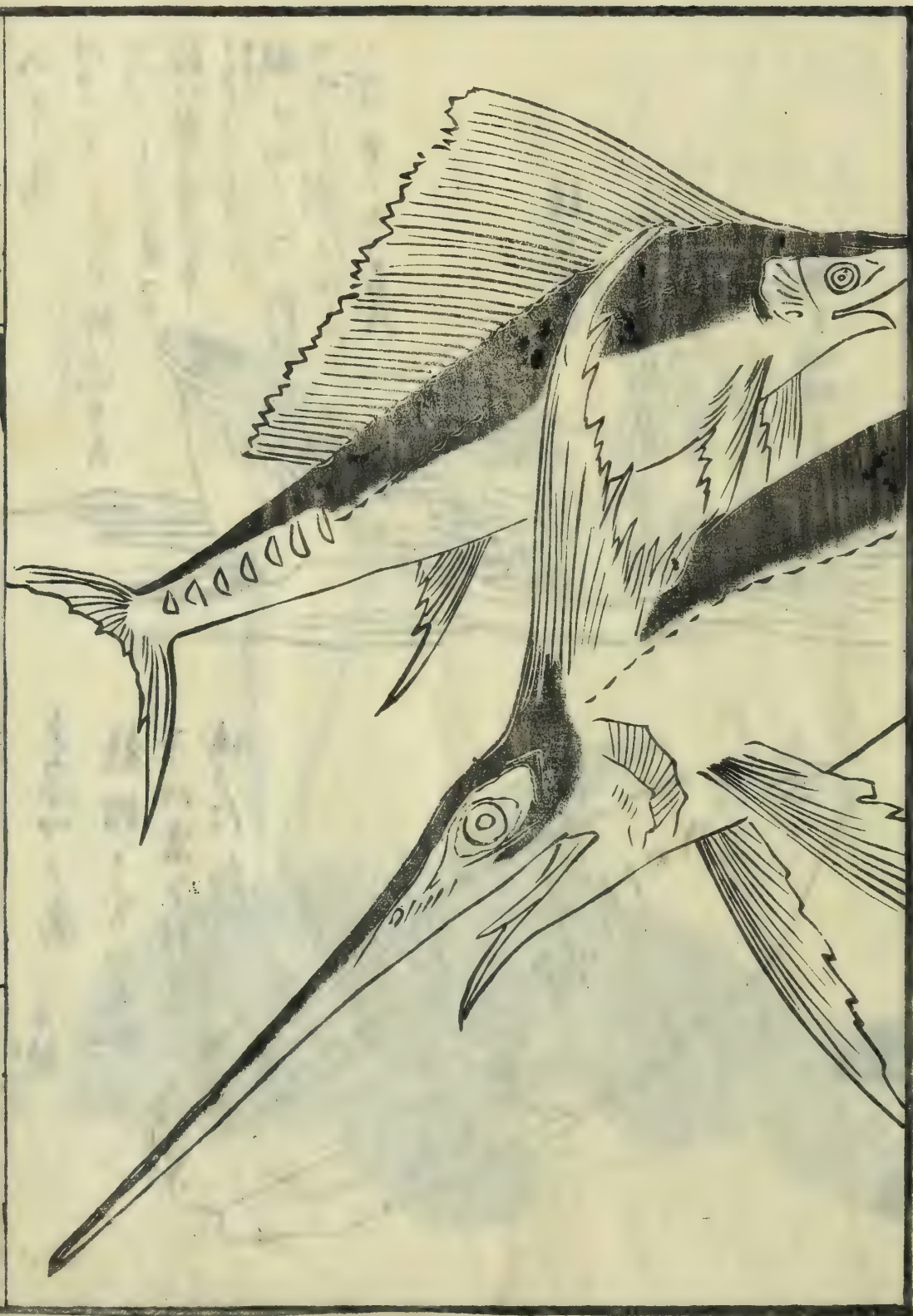
頸目のツヅク

一丈余

此魚ハ生月時 亦常アツク者ノ處所ニ
均クアツク云々正月の料理ニ用ルハ

脊の色
鰭は
腹のカタ
印





ライ鳥

此鳥常々あえ鯨漁の爲
 ころころとあそび
 鯨の肉を喰ふ事
 うきうきとあそぶ
 鷗^{カモ}うきうきとあそぶ
 のあそびにあそび
 八歩半あそび

頭ウス黄

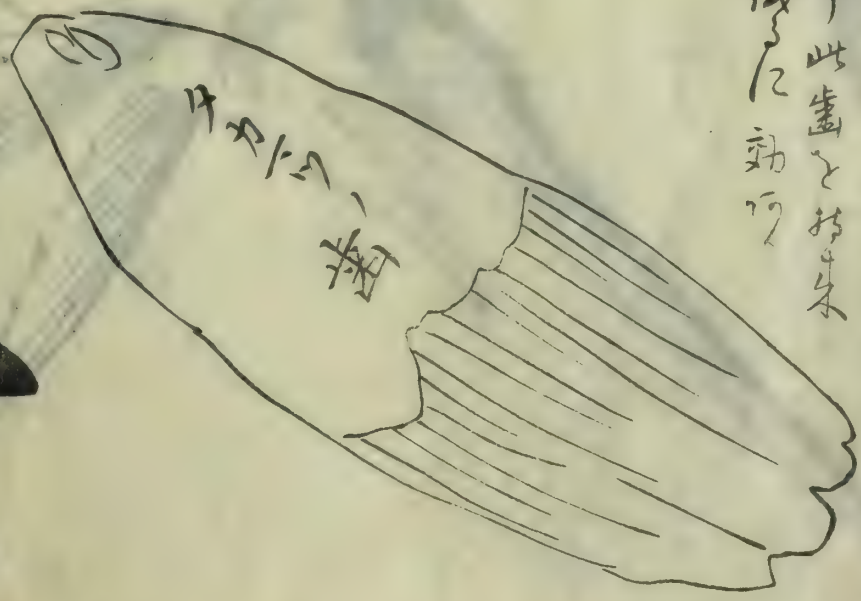
嘴生胭脂ウス色



タカマツノ歯

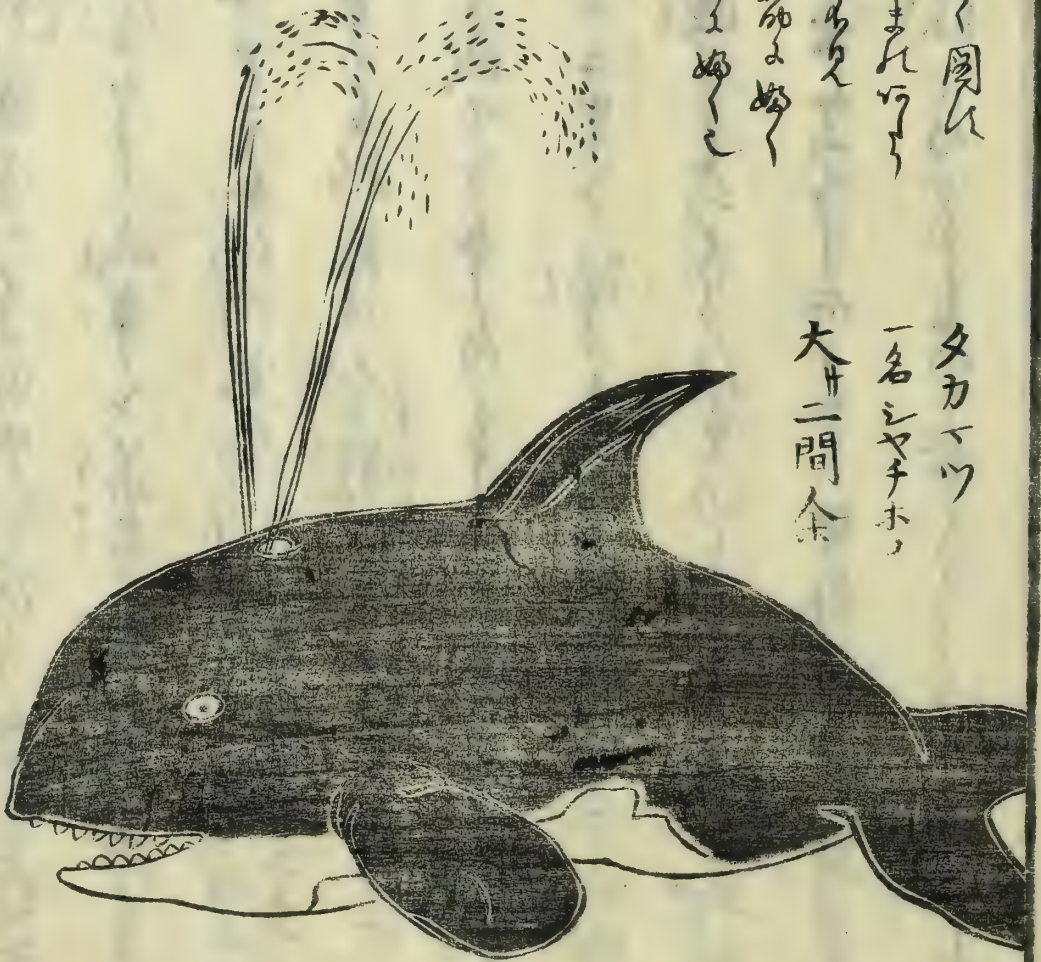
一名鱧

鯨鮓と喰ふ也
 此歯を喰ふ
 減に効く



此圖ハ此島の漁父に尋く図ハ
海中に潮を吹火を出しまれり
るるくても全體とあり
世美鯨と同一潮と二節あり
くくも世美の鯨と一節あり

タカマツ
一名シヤチホク
大廿二間余



叔圖

ケイ
シ
ハ
ヨ
ナ
ナ

あゑふふ

毫毛カウモウ

虚言 キョゴン

モシク
文章と
ハナヤカ

大にせむのまに

五島平戸支那紀州熊野

甫 此甫より左の録小
 考 考も亦数十六品

孝文の御

城の近里のもろ鯨の

セニ
人々
骨體
下ツタキカタク

考う

五島を越えて八里の嶺を平戸

同五六男又八十二之男と

歸

餘漁以乙丑極月

三月朔九日

そまつきふし
格と押

者

八
人
刺
子

一人他の者事つるを以て録せしむる事

舟

水練

命をうけとる

漁父

幼少う海邊に育り成に水とんさるるもあやうされん

ハタラ 傭のち 巨魚にうけりしあやうに故より若鯨

虚候 虚候より成と二千を浮ひて来と前よりゆと

扱せんとして 余嘗平戸島に遊り 松浦侯の命よりて

生月益富又あつて定に 二十日 又たふし 孫ある所

出候とあやう 縁ありあやうあるは 好ましく 欠に危

とあやう 此處とる 此よりあやう 西より 正月

元日此より門松とて 雑煮といふ事 江戸より

四日此よりとあやう 平戸島の方 白嶽のやと乗 終年 教

百五十八日

丈に^{ツビ}へて^{セキ}赤壁^{ハキ}と^{ワカ}鯨^{クジラ}の^コ角^{ツノ}と^ク油^{アブラ}水^{ミヅ}と^ア了^{マツ}に^ハい^ハる

岩^{ガン}壁^{ヘキ}赤^シ大^{タイ}緒^{ニヤセキ}石^{イシ}の^ノ角^{ツノ}と^ク海^{ウミ}岸^{カシ}と^ク免^メう^ウて^{タス}田^{タス}助^{ケウラ}港^{ウラ}に^ニ到^キる^ハ長^{ナガ}崎^{サキ}

乗^{ノリ}舟^{フネ}此^{コノ}夫^{ソノ}と^ト舟^{フネ}と^ト出^デて^テ平^{ヘイ}戸^コ城^{ジョウ}下^カに^ニ着^{ツク}

鯨^{クジラ}舟^{フネ}旗^{ハタ}乃^ハ圖^ズ

長^{ナガ}須^ス子^コ持^チハ
ト^チモ^モの^ノ方^{ハタ}建^{タテ}ル

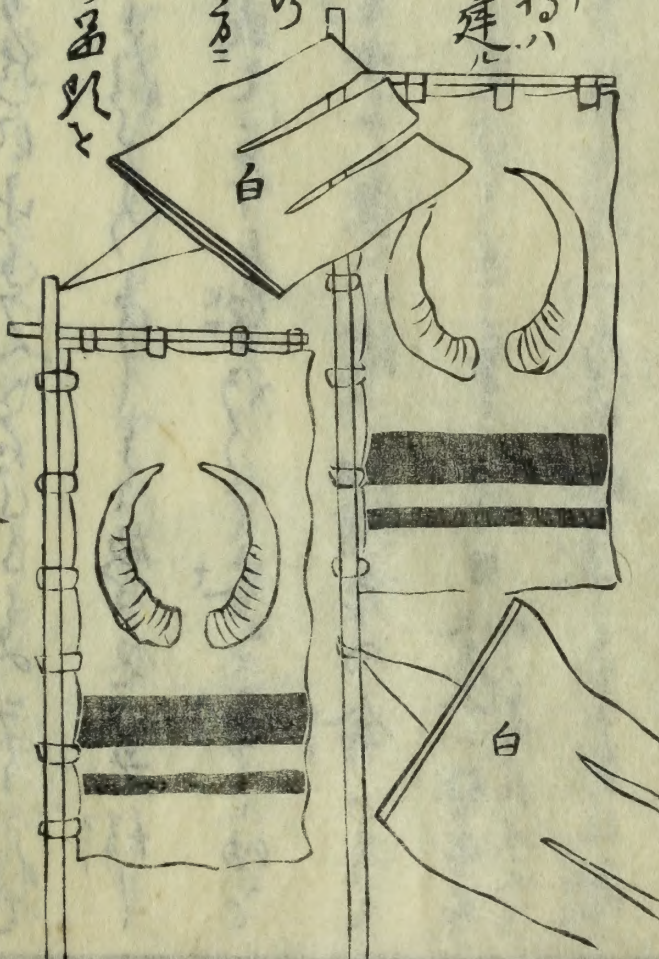
勢^セ美^ミの^ノと^トと^トハ^ハ船^{フネ}と^ト舟^{フネ}の

表^{オモ}り^リ建^{タテ}ル^ル坐^サ頭^ウハ^ハト^トモ^モの^ノ方^{ハタ}

方^{ハタ}に^ニる

皆^{みな}旗^{ハタ}の^ノ建^{タテ}う^ウて^テ鯨^{クジラ}の^ノ角^{ツノ}と

走^{ハシ}る^ル



紋^{モン}牛^{ウシ}の^ノ角^{ツノ}あり

